

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	母体施設の基本理念・運営方針を大切にしながらも、ホームとしての目的が達成できるよう、ホーム独自の理念(目標)を掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	事業所の理念や運営方針について学ぶ機会を持ち、理念に沿ったケアが出来るよう努力している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には入所時の面談の際に、ご説明させていただいている。地域の方には運営推進会議の時にお話しさせていただいたり、行事(納涼祭など)の時に、“グループホームとは”と言う内容の案内を配り、ご説明させていただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームの畑の作業を通し、ご近所の方と知り合いになり、作物の育て方を教えていただいたり、また、取れた野菜などのおすそ分けをいただいたりしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	組合に参加し、清掃活動などにもできるだけ参加するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	現在はまだ取り組めていない。運営推進会議などの時にご意見を伺い、今後取り組めるよう努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、ご指摘のあった部分について話し合いを持ち、改善を行ってきた。また、今回も、外部評価の意義を職員に伝え、自己評価について話し合いを行った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価についての報告を行った。また、会議の際に利用者の様子や、ホームの取り組みについて毎回報告を行い意見を伺っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	以前は相談がある時は出かけて行き、助言をいただいていたが、今は運営推進会議に参加していただく以外、こちらから行く機会がなくなってきている。市との連携をとり、サービスの向上に結び付くよう、努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今まで個々に学ぶ機会があったが、ホームに該当する方が居ないため、ホームで学ぶことはなかった。ご家族より成年後見人制度についてのご質問があり、これを機会に職員とも話し合った。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の権利擁護推進委員養成講座に参加させていただき、権利擁護や高齢者の虐待について学ばせて頂いた。また、学んだ事を職員にも伝え、現在ホームの中で利用者の尊厳を保持できるケアのあり方を考え、取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に面談を行い、細かく説明させていただいている。その際、疑問に思っている事、またご質問があれば伺い、お答えするようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お話しが出来る方には、お話しを伺っている。自分の気持ちを言葉で表せない方は、普段の生活の様子や表情から推測し、ケアに生かしている。また、桐生市は介護相談員の訪問が無いので、訪問看護の看護師が来た時に「何か心配事がありますか・・・」と聞いていただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された時に近況報告をするとともに、健康状態についてもお話しするようにしている。金銭の出し入れについては出納帳をつけ、定期的に確認していただき、サインをいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に“ご意見箱”を設置するとともに、お話がある時には、随時伺っている。また、個別面談を行いお話を伺う機会を設け、ご意見がある時には、ホームの運営に反映するよう心がけている。また、入所時にホーム以外に、市町村や国保連などにも苦情を言える事をご説明させていただいている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を行い、職員の意見を聞いている。また、個別面談を行い、話を聞く様になっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	系列に3つのホームがあり、勤務時間帯も基本的には同じようになっているが、利用者の状況に合わせて対応できるよう、職員と話し合い当ホームの利用者の状況に合わせてシフトを組んで対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ避けるようにしている。また、やむおえず移動があった際も、引き継ぎ期間を充分に取る様に心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修は勿論、外部の研修に参加出来るような機会を作り参加していただいている。経験年数別の研修もあり、それぞれの職員に合わせた指導も行っている。また、研修に参加しやすいよう、勤務の調整も行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型連絡協議会のフォローアップ研修に参加させていただき、他施設との職員の交換研修を行った。ホームを客観的に見ていただき意見を伺うとともに、他施設の良い所を参考にし、ホームのケアのあり方について振り返る事が出来た。「ホール対応の職員が居ない時間帯が出来る」等のご指摘があり、それについて話し合い改善を行った。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>十分な職員体制を確保するため、職員を増やしていただいた。また、無理のない勤務を組みストレスをためないよう工夫したり、連休を入れる事で、リフレッシュしてもらっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人一人が得意な分野を生かすことで、やりがいを持って仕事に取り組めるよう考えている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前にホームに来ていただき、お話を伺う様にしている。また、必要に応じて訪問し、ご本人に会う機会を作っている。また、ご自分でお話しが出来ない方は、ご家族からお話を伺い、ご本人の困りごとを把握するようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所の希望があった時には、ホームに来ていただき、面談をし、お話を伺う様にしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談状況を確認し、今その方にどんな支援が必要かを考え、必要な支援に結び付けるようにしている。(早急に入所を希望されている時には、他施設を紹介したりしている。)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学に来ていただくよう勧めている。また、入所されてからもホームに馴染むまで、面会の機会を増やしていただいたり、また、本人の希望がある時には、ご家族と外出していただいたりしている。不穏な時には電話をかけ、ご家族の声を聞いていただくなどして、不安を和らげる工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日生活を共にする中で、沢山の事を学ばせて頂いている。私たちが提供したケアを通し、利用者の笑顔が見られたり、感謝の言葉をいただいたりする事が、職員の励みや喜びに繋がっている。職員も利用者にお手伝などしていただいた時には必ず「ありがとうございます」と声をかけ、利用者には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は利用者の様子を細かく伝えるようにし、できるだけご家族とコミュニケーションを取るよう心がけている。利用者にとって今何が一番必要かを共に考え、必要な時には協力をいただく様になっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面談の時にお話を伺い、今までの家族の関係を理解するようにしている。また、認知症の進行に伴い、ご本人の状況が受け入れられないご家族には、折々にお話し伺い、徐々に受け入れが出来るよう支援させていただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに親戚や友人が遊びに来られている。また、牧師さんをしていただいた方の所には、毎週教会の関係の方が面会に来られている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に利用者の様子を把握するようにし、関係が悪化しそうな時には調整する様になっている。利用者同士で協力し合ったり、支え合う気持ちを大切にし、見守る様に心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	今現在、退所された方夜ご家族との継続的な関係が出来ていないので、今後検討し取り組んでいきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を伺える時には何う様にしている。また、それが困難な時には、その方の生活歴やご家族の話の中から、ご本人の意向を把握するよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面談や本人から聞き取りを行い、生活歴や生育歴等の把握を行うよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の記録の記入やアセスメントを取ることで、その方の生活リズムの把握や、できる事できない事を知り、ケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族より希望を伺い、また、ご自分で訴えられない方は、職員がアセスメントを基に推測し、利用者がその方らしく生活するためにはどうしたらいいかを考え、介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ケアプランの評価をし、現状に即していない場合は見直し、新たに計画を立てるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や、介護計画の実施状況などを記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には受診はご家族にお願いしているが、緊急時又は必要に応じて、職員が同行している。また、車椅子の方の場合は、リフト車で送迎したり、ご家族が車を持っていない方には、受診時に職員がご家族を迎えに行き、病院に送迎している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	三味線や歌、ハーモニカなどのボランティアの方の訪問をお願いし、利用者楽しんでいただいている。近くの交番の警察官が訪問して下さったり、消防署員立ち合いで避難訓練を行っている。また、運営推進会議には地域の民生委員さんに参加していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご家族より成年後見人制度についてご相談をいただいたが、ケースとして扱った事が無かったので、地域包括支援センターに相談し、アドバイスをいただいた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が同行し専門医にかかられているケースもあるが、ご家族の対応が難しい場合が多く、ホームの協力医の往診を希望されている。専門医への受診や、検査など必要に応じて職員が同行し援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけの仕方や利用者への対応についてのマニュアルを作成し、職員に渡すと共に、会議の時に折に触れ話すことで、職員の意識の向上に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のできる事、できない事を把握し、一人一人に合わせた対応を心掛けている。また、言葉で現せる方には話を伺いながら、自分で訴えが出来ない方には職員が表情などを読み取ることで、その方の気持を理解するようにしている。できるだけその方の意思を尊重できるよう、努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望があれば、お散歩に行ったり、ドライブに出たり、その日の予定を優先するのではなく、柔軟に対応するように心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用される方もいるが、昔から行きつけの美容院に行かされている方もいる。また、時には地域の理美容店に行く事もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立ち仕事が難しいという利用者からの意見があり、毎日の調理には参加していないが、おやつ作りなどお手伝いしていただく事がある。また、片付けは毎日利用者と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	サイダーが好きな方には、サイダーをお出ししたり、ヤクルトを希望される時には、ヤクルト屋さんが来た時に買っていたりしている。また“イモが食べたい”など、希望がある時にはできるだけ希望に添う様になっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを把握し、失禁やパットの使用量を減らすよう努力している。また、夜間は排泄の時間に合わせトイレに案内し、気持ちよく休んでいただける様にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくり入浴していただける様、入浴日を工夫している。また、入浴日を2日連続にし、その日に入浴をしたくないと言われた場合、翌日に入浴出来るようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動量を増やしたり、また、日中日向ぼっこをしていただきリズムを整えたりしている。また、気持ちよく休んでいただける様、冬場は足を温めたり、また、ベッドの位置を工夫し安眠に繋がる様努力している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、その方が得意な事、好きな事を探し取り組んでいただく様にしている。また、洗濯たたみやテーブル拭き、食事の後片付けなどのお手伝いをしていただいている。時には気分転換に外出をしていただいたり、月に1度外食を楽しんでいただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の力の違いがあるため、すべての利用者には行えていないが、希望がある方には職員と外出していただき、買い物や外食を楽しんでいただけるような取り組みを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブの希望がある時は、可能な範囲で対応するようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと希望された時には、ご家族にお話し、できる限り実現できるようにしている。また“寿司が食べたい”と希望された利用者に職員が同行し、食べに行ったケースもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかけたいと言われた時には、可能な限り電話をしていただいている。また、手紙などを書かれた時にはお預かりし、ご家族にお渡ししている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームにはほとんど毎日のように、ご家族や知人の訪問がある。訪問があった時には、お茶などをお持ちし、ゆっくり過ごしていただく様心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設の拘束防止委員会に参加し情報交換するとともに、勉強会などにも参加している。また今回、県の権利擁護推進員の養成講座に参加させていただき、それを機会に不適切なケアなどについて職員に話しをし、現在も取り組みを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはいつでも開けられる状態にあり、天気の良い日は、掃き出し窓も空いている。また、玄関にも鍵はかかっていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール対応の職員が見守りを行っている。また、夜間は2時間おきに巡視するとともに、物音がしたり、起きてこられた時には随時対応するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切りなど自分で管理されている方もいる。また、はさみなどは職員が管理し、希望があれば使っていただく様にしている。洗面所などにも共通して使う様な手洗い洗剤など置いてあるが、異食のある方の近くには、口に入れて困るような物は置かないように心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こってしまった時には、ヒヤリハット・アクシデントレポートを作成し、必ず振り返る様にしている。転倒や誤薬・離苑等の時には職員と話し合いを持ち、原因を上げ、対策を考え事故防止に努めている。また、母体施設の安全委員会にも参加させていただき、他施設からの助言もいただく様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	緊急時の対応については勉強会に参加しているが、応急手当や初期対応の訓練に参加し学ぶ機会が持ていないので、機会を作り参加していきたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・そして夜間帯を想定した避難訓練を行っている。運営委員会や地域の方にも参加いただいた納涼祭の時に、災害時の協力のお話をさせていただいている。前回は近所にもチラシを配り、地域の方の参加も呼びかけてみた。地域の方の参加はいただけなかったが、ご家族と民生委員さんに参加いただけた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面談の時に、現在の状況や考えられるリスクについてお話し、ご理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日に1度、また必要に応じてバイタルチェックを行って、変化のある時には必ず申し送る様にしている。また、排便状況や食事も記録し、状態に変化がある時には訪問看護に連絡し、相談するとともに、速やかに受診するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の処方箋の一覧表を貼り、いつでも確認できるようにしている。また、副作用について表を作成し、職員がすぐに目につくところに貼ってある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をつけ、排便状況を把握している。できるだけ体を動かしていただくよう工夫するとともに、野菜を多く摂っていただいたり、また、排便が無い時には牛乳を飲んでいただいたり、お腹を温める等の工夫を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分でできる方にはしていただき、できない方については、その方に応じて介助を行っている。夜は入れ歯をお預かりし、消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量をチェックし、記録している。水分の摂取量が少ない方には、好みのものを飲んでいただくなどして、できるだけ水分が取れるよう工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日布巾やまな板を消毒している。また、定期的に冷蔵庫などの清掃をするとともに、曜日を決め茶碗などの消毒も行っている。食材については、賞味期限が切れることのないよう、職員間で申し送りをし使用するようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節のお花を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時には、ロールカーテンで調節している。また、洗面所に季節のお花などを飾る様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席で過ごされてい方にはテーブル席でお話をしただいたり、ソファで過ごされたい方にはソファでと、思い思いの所で過ごしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人の希望に応じて、ダンスや椅子、テーブルなど使いな れた物を持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	温度計や湿度計を参考にしながら、温度や湿度の調整を している。また、天気の良い時にはできるだけ窓を開け換気 している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。また、手すりを設置 し、つかまりながら歩行が出来るようにしている。一人一人の 身体状況に応じて、シルバーカーや歩行器を使用してい ただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	コップなど、間違いやすいものには大きく名前を表示するこ とで、他の利用者のもとと区別できるようにしている。また、入 浴の際の衣類かごなども、着る順番が分かる様に工夫し、 セットするようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	天気の良い日にはウッドデッキに出ただき、お茶を飲 んだり、時にはプランターにお花を植えていただいたりしてい る。また、畑に出て、収穫を楽しんでもらったりしている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちのグループホームには畑があり、作物を育て利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。ホームで収穫した取りたて野菜が、毎日の食卓に並びます。利用者は、作物の成長をとて楽しみしされ、それが張り合いにも繋がっています。また、畑の作業を通し、ご近所の方との交流も持てるようになりました。今後も地域の方とのつながりを大切にし、地域の中に根差したホーム作りを目指して行きたいと思っています。認知症方は、自分の気持ちをうまく伝えることができません。私たちのケアが適切であったかを判断する時、利用者の表情を読み取り、判断することもしばしばあります。ホームの中で成果のあった3つの事例を通し“利用者が笑顔であることとは”また利用者の笑顔が職員の張り合いになること等をまとめた症例発表が、昨年、ぐんま認知症アカデミーの研究発表で賞をいただきました。まだまだ学ぶべきことは沢山ありますが、認知症のケアに当たるプロとしてこれを機会に、職員と共にますます努力していきたいと思っています。